

「イスラーム史の授業で意識してきたこと」

窪田善雄（小諸高校教頭）

（１）私の世界史に「グランドヒストリー」があるとすれば・・・

○「グランドヒストリー」

【第1ステージ】16世紀～19世紀

- ・文明圏並存⇒「資本主義」の成立⇒世界の一体化⇒世界システムの成立
- ・世界システム「中核」における「国民国家」の形成
（「国民」を総動員する政治システムと「民主主義」「愛国心」などの政治的「正義」の成立）

【第2ステージ】20世紀

- ・「国民国家」間の世界戦争（第1次大戦）
- ・「周辺」からの挑戦＝開発独裁としての「国民国家」⇒その究極形としての「社会主義」
- ・「正義」を主張しあう世界戦争へ（第2次大戦や冷戦）

【第3ステージ】21世紀

- ・「社会主義」の解体⇒政治的「正義」の時代から宗教・民族的「正義」の時代へ
- ・「グローバリズム」という匿名性の「帝国」
- ・匿名性の「帝国」に対抗する宗教・民族的「正義」をおびた匿名性の組織（テロ）

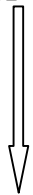
○「グランドヒストリー」から導く世界史の「通奏低音」

- ・思えば20世紀（第2ステージ）は歴史上最も多くの人々が不本意な形で死に追いやられた世紀であった。二度とこのような事態を繰り返してはならない。
- ・居丈高な「正義」は、決してよい結果をもたらさない。
- ・「正義」のもたらす不寛容が諸問題の根源にある。違いを超える知恵を世界史に探っていこう。

（２）「通奏低音」を意識したイスラームの授業

○事例1：「イスラーム教とキリスト教は違わない。」（イスラーム成立の授業から）

【意外に知られていない事実】



- ・イスラーム教は、モーセやイエスがやや不完全な形で伝えてきた「神」の意志をムハンマドが完全な形で伝えた、という立場をとる。
- ・ユダヤ教の神、キリスト教の神とイスラームの神は同一である。少なくともイスラームではそう考えられている。

【イスラームが持つ柔軟性に注目させる】

- ・『コーラン』に現れるモーセやイエスやマリアなども紹介

○事例2：「イスラーム世界は、寛容な世界だった。」（オスマントルコの授業から）

【オスマン帝国の事例】



- ・非ムスリム（ズィンミー）に認められる広範な宗教的自治
- ・異民族の人材によって体制を強化するデヴシルメ
- ・キリスト教寺院を「ちゃっかり」モスクに転用したオスマン

【イスラーム社会の寛容性に注目させる】